

とうがらしの栽培

学名 *Capsicum annum* L. ナス科 トウガラシ属

高温を好み、露地栽培のほか、温室・ハウスなど施設での栽培も可能。

草丈・着果の早さの面では施設栽培が有利。着色は光がよく当たる場所で早くなります。

適地

日当たり通風、排水がよく、腐植を多く含む肥よくな砂壤土を好みます。

ナス科植物との連作を避けて下さい。

作型

2月～4月に播種、3月～5月に定植、8～10月に出荷

〈播種・育苗〉

発芽適温 25℃。温度が低いと発芽が悪くなるので注意して下さい。

育苗箱にスジ播き、またはプラグトレイ（200穴～406穴）に播種します。

露地栽培の場合は、ポットまたは大きめのプラグトレイへの移植を想定して下さい。

用土は一般的なもので良く、種子が隠れる程度に均一に覆土します。覆土はバーミキュライトがお勧めです。

発芽後は温度を下げ、風通しを良くすると立ち枯れが少なくなります。薄い液肥を時々かけて下さい。

〈仮植〉 本葉2枚時頃にポットまたは大きめのプラグへ仮植します。

活着したら大粒化成肥料を1～2個ポットに入れます。

施設栽培で圃場条件が良い場合は、省いても構いません。

〈定植〉

露地栽培の場合は霜の心配がなくなった時期に行います。また定植初期にパオパオなどで防風すると生育が良くなります。

施肥：元肥として1アール当たり分量で窒素・リン酸・カリを各1.6～1.8kg程与えます。

※土壌診断によりを調整することをお勧めします。

追肥は生育を見ながら加減して下さい。

ベツト幅60～75cm・条間25～40cm・株間20～25cmの2条または3条植え。

2条植えのほうが作業がしやすくなります。

マルチ使用も可能です。

〈ネット〉

定植幅のものをそのまま1段使うと簡便です。支柱はしっかりしたものを使用して下さい。

〈摘心・管理〉

摘心しなくても分枝しますが、8～10節を残し早めに摘心することで、ボリュームが揃った切り枝を得やすくなります。日照不足で落花・結実不良となる場合は、トマトトーン50～100倍噴霧で若干の改善が見られます。悪天候が続く場合は、過度の遮光は避け、余分な葉は取り除くなどの工夫も必要です。

実に光が多く当たるほうが着色が早くなります。（特にハウス栽培で）葉が繁茂して実に光があたりにくい場合、葉を除去すると良いです。十分な生育をした株であれば葉が少なくなっても大きな問題とはなりません。

〈病害虫〉

アブラムシ、ハダニ、ハモグリバエなどに注意して下さい。

高温多湿条件で斑点病、株枯れが発生することがあります。施設栽培の場合、高温期に蒸れることで病気が発生しやすくなりますので通風を心がけて下さい。

〈収穫・出荷〉

早く開花した花から結実し成熟します。全果実が着色するには長時間を要します。枯熟期になると果実にしわができます。

全体の30～50%ほど発色したころに収穫するのが一般的ですが、緑色の状態でも流通しています。

基本的には葉を全て取り除きます。一部品種（カメレオン）は小さな葉を残して湿式出荷としている産地もあります。実が付いていない若い枝は除去したほうが無難です（萎れやすい）。

清潔な水で水揚げして下さい。濁り、ぬめりは必ずチェックして下さい。

長さ、太さ、実付き数などで等級分けを行います。